

## 附録

Gold-QPD 育成講座 基礎教材

## やさしい中国医学の総て(基礎と臨床)

## ——— 神髄を探る ———

学校法人後藤学園

中医学研究所所長／兵頭 明

前言 .....	5
一、中国医学の全体像とは .....	5
二、診察システムと診断システムとの関係について .....	5
三、診断システムと治療システムとの関係について .....	5
四、手技について .....	5
第1章 治療システムについて .....	6
一、経絡と経穴分布の法則性 .....	6
二、経絡経穴の主治法則 .....	6
[臨床応用の例] .....	6
[循経選穴について] .....	7
[イメージ・トレーニング] .....	7
[ツボの作用] .....	7
[ツボのイメージ化] .....	7
【小結】臨床への応用 .....	7
例1 経絡病証(経筋病証)への応用 .....	7
例2 臓腑病証への応用[虚実反応の現れやすい経穴] .....	7
三、経絡と経筋の相関性 .....	8
四、六腑病証はどうするか .....	8
五、選穴法について .....	8
1、 弁証選穴、 .....	8
2、 循経選穴、 .....	8

3、 対症選穴、.....	8
4、 局所選穴、.....	8
5、 経験選穴.....	8
六、配穴について.....	8
1、弁証配穴について:臓腑気血病証に対して用いられる。.....	8
2、循経配穴について:経絡・経筋病証に対して用いられる。.....	8
3、愈原配穴について:五臓病証に対して用いられることが多い。.....	8
4、愈募配穴について:臓腑病証に対して用いられることが多い。.....	8
5、募合配穴について:六腑病証に対して用いられることが多い。.....	8
6、局所配穴について:局所の改善を目的に用いられる。.....	8
<b>第2章 診察システムと診断システム.....</b>	<b>9</b>
<b>一、生理観をベースとした診察・診断システム.....</b>	<b>9</b>
1、生理と病理の関係.....	9
2、弁証の進め方.....	9
①弁証のポイント:原因、どこ、何が、どうなっている.....	9
②診断システムと治療システムとの関係[処方レベル1、レベル2].....	9
1、診断システム[レベル1].....治療システム[レベル1].....	9
2、診断システム[レベル2].....治療システム[レベル2].....	9
③レベル1のスライド.....	9
④レベル2のスライド.....	9
⑤レベル2の例.....	9
<b>二、病位の把握の仕方.....</b>	<b>9</b>
<b>[演習1]病位把握のための問診表を作ってみよう.....</b>	<b>9</b>
A、肝病証の診察のポイント[病位情報].....	9
B、心病証の診察のポイント[病位情報].....	9
C、脾病証の診察のポイント[病位情報].....	9
D、肺病証の診察のポイント[病位情報].....	9
E、腎病証の診察のポイント[病位情報].....	10
<b>[演習2]自己チェックをしてみよう。.....</b>	<b>10</b>
1. 五行スコア.....	10
2. 健康度チェック表.....	10
<b>五行スコア[明治鍼灸大学制作].....</b>	<b>10</b>
◆肝スコア.....	10
◆心スコア.....	10
◆脾スコア.....	11
◆肺スコア.....	11

◆腎スコア .....	11
【付録】舌診について.....	12
三、基本病理の把握の仕方 .....	12
【寒熱弁証】について.....	12
四、診断システムと治療システムの実際 .....	13
【レベル2へのチャレンジ】.....	13
【診察・弁証のポイント】.....	13
【弁証論治システムの実際】.....	13
1、気虚グループを例として .....	13
2、陰虚グループを例として .....	13
3、血虚グループを例として .....	14
4、実熱グループを例として .....	14
五、効能別〔穴性〕を把握しておく臨床応用がしやすい。.....	14
【まとめ1】臓腑病証に対する選穴モデル .....	15
1、臓腑証治の選穴ポイント.....	15
2、陰陽証治の選穴ポイント.....	15
3、気血証治の選穴ポイント.....	15
4、痰湿風火証治の選穴ポイント .....	15
【まとめ2】五臓病証を例とした配穴トレーニング .....	15
1、肺気虚の場合は.....	15
2、肺陰虚の場合は.....	15
3、肝陰虚の場合は.....	15
4、腎気虚の場合は.....	15
5、腎陰虚の場合は.....	15
【まとめ3】肝病証を例として .....	15
1、肝虚……曲泉、太衝、肝兪など .....	15
2、肝実……行间、太衝、肝兪 .....	15

Gold-QPD 基礎講座資料

やさしい中国医学の総て(基礎と臨床)——神髄を探る——

2010 初版

発行: 兵頭明 (中医学研究所所長)

編集: 齋藤隆裕 (中医学研究部)

監修: 兵頭明

協力: 学校法人 後藤学園 / 東京衛生学園専門学校

## 前言

### 一、中国医学の全体像とは

本日は「やさしい中国医学の総て(基礎と臨床)—神髄を探る—」というテーマをいただきました。「総て」ということなので、総てをご紹介したいのですが、私一人で総てをご紹介するには、テーマが大きすぎます。ここではできるだけわかりやすく、中国医学のシステム、つまり診察・診断システム、治療システムの全体像をご紹介させていただきたいと思っています。全体像が見えてくると、基礎と臨床の整合性も見えてくると思います。

### 二、診察システムと診断システムとの関係について

臨床にあたっては原因の解明はもちろんのこと、病位と病態の把握、つまり証を決定するために、どのような診察システムを持っているかがポイントになるでしょう。この診察システムと診断システムが一体化しているわけです。そしてその診断システムと一体化した治療システムは、中国医学の場合はどのようになっているのか、簡単にご紹介させていただく予定です。

### 三、診断システムと治療システムとの関係について

当然のことながら治療をする場合、迷いがあってはいけません。自分の選んだ治療穴には、すべてしっかりとした治療目的がなければなりません。自分が「どの角度から、何を、どのように調節するのか、治療するのか」、患者さんにその説明もできなければなりません。イギリスで開業している知人によると、その説明がなければ、患者さんは治療を拒否するそうです。治療家として信頼してもらえないということになります。

また治療穴の選び方には、いろいろな法則があります。まず古典にもとづいた治療穴の選び方ができるようになれば、すぐに臨床に応用ができるようになります。さらに歴代の治療家の経験を加えることによって、自分の治療に大きな幅をもたせることができるようになるでしょう。

### 四、手技について

自分の選んだ治療穴にはすべて治療目的があるわけですから、その実現にむけ最終の仕上げが手技ということになります。そして手技を施すことによって患者さんは様々な反応を示します。術者の手に伝わる反応と、患者さんが示す反応にたえず注意を払う必要があります。本日は静的な補瀉手技、動的な補瀉手技、その他の補助手技などについてもご紹介させていただく予定です。

## 第1章 治療システムについて

### 一、経絡と経穴分布の法則性

なぜ体にはシグナル(ツボ反応)が現れるのか。その現れかたには、実は一定の法則があるのです。体に張りめぐらされた情報伝達システム、それが経絡の分布であり、その経絡の分布を把握すると、体のいろいろなシグナルが、何を教えてくれているのかわかるようになるわけです。またこのシグナルが現れやすい部位が経穴(ツボ)であり、したがって経絡と経穴の関係を把握することができれば、診断への応用、そして治療への応用が可能となってくるわけです。

### 二、経絡経穴の主治法則

まず経絡の主治法則についてですが、Xという経絡はXという臓腑につながっています。これはXという経絡がXという経絡の病証と、Xという臓腑の病証を主治できるということです。原則としてはXという経絡上のどの経穴も、大なり小なりXという経絡病証と臓腑病証に効果があるということになります。

例えば、Xという経絡にA～Fという経穴があるとします。このA～Fという経穴に共通する作用は何かという、X経の経絡病証とXという臓腑病証を主治する、ということになります。ただしX経のA～Fという経穴には、さらにそれぞれ得意とする主治症があり、それによって様々な要穴として位置づけられているのです。Yという経絡についても同様のことが言えます。

横のラインで見てみるとどうでしょうか。例えば、X経のB穴とY経のB穴が榮穴であったとします。榮穴には「身熱を主治」する作用、つまり清熱作用があるので、X経のB穴はX経の熱証とX臓の熱証を主治することができ、Y経のB穴はY経の熱証とY臓の熱証を主治することができるということになります。これが経穴の主治法則と言われているものです。

#### [臨床応用の例]

臨床応用をしてみましょう。例えば、足陽明胃経の榮穴である内庭は、胃経の熱や胃熱を清熱したい時に選穴することができ、足厥陰肝経の榮穴である行間は、肝経の熱や肝火・肝陽を清熱したい時に選穴することができるのです。また手太陰肺経の榮穴である魚際、肺経の熱や肺熱を清熱したい時に選穴することができるのです。このことから内庭には清胃、行間には清肝、魚際には清肺の作用があるとされています。

同じようにX経のC穴が原穴であったとします。このC穴はX経の経絡病証を主治することができるし、X臓の虚実の病証を主治することができます。Y経のC穴が原穴だとすると、同様にY経のC穴はY経の経絡病証とY臓の虚実の病証を主治することができます。

こういった法則性をベースにして、足厥陰肝経の原穴である太衝を例として見てみましょう。太衝が肝血虚を主治することから、太衝には補肝、補血の作用があり、肝鬱を主治することから太衝には疏肝の作用がある、肝陽上亢を主治することから太衝には平肝潜陽の作用がある、肝風を主治することから太衝には平肝熄風の作用があるとされているのです。

## [循経選穴について]

次に循経選穴について見てみましょう。先ほど、A～Fの経穴はその経の経絡病証を主治することができるかと述べましたが、このA～Fの中で、特に経絡病証の治療に優れているのが、BとCであるとされています。これは『靈枢』邪氣蔵府病形で紹介されている「榮兪は外経を治す」という考えにもとづいたものです。

経絡の走行している部位に現れる経絡病証は、どこにその反応が出現しやすいかという法則性を『靈枢』邪氣蔵府病形で提示しているのです。

## [イメージ・トレーニング]

風穴……6穴(風池、風府、風門、風市、翳風、秉風)

水穴……5穴(水溝、水泉、水道、水分、水突)

気穴……5穴(気舎、気戸、気衝、気穴、気海)

神穴……8穴(神門、神堂、神封、神蔵、神道、神庭、神闕、本神)

## [ツボの作用]

風穴は風邪をさばく作用、水穴は水をさばく作用、気穴は気を調節する作用、神穴は神を調節する作用があることがわかります。神には精神・意識・思惟能力、知覚、痛覚の調節する作用があることから、これらの「神」という字のつく経穴には精神・意識の調節、健脳、鎮静、鎮痛といった作用があることがわかります。

## [ツボのイメージ化]

古代の人々は経気の流れを川の流れで比喻し、溝、渠、水道、池、沢、井、泉、淵、渚など水に関係した語を借用して穴名としています。こういったツボをイメージできますか。

## 【小結】臨床への応用

## 例1 経絡病証(経筋病証)への応用

榮穴、兪穴の反応→どの経絡に異常があるか、診察・診断・治療に応用が可  
→どの経筋に異常があるか、診察・診断・治療に応用が可

## 例2 臓腑病証への応用[虚実反応の現れやすい経穴]

原穴、背兪穴、募穴、下合穴

五臓の反応→原穴、背兪穴に現れやすい→診察・診断・治療に応用が可

六腑の反応→募穴、下合穴に現れやすい→診察・診断・治療に応用が可

## 例3 気血津液病証への応用[病理反応の例→診察、診断、治療に応用できる]

気の問題 →太衝(ストレス)

気機の問題→臈中(上焦、胸部)、中脘(中焦、上腹部)、気海(下焦、下腹部)

血の問題 →三陰交、血海、膈俞など  
水湿の問題→陰陵泉、委陽、中極など  
痰の問題 →豊隆、足三里、中脘など

### 三、経絡と経筋の相関性

経筋というのは経絡の走行と相関している筋群のことを言います。経筋病証は運動器系疾患に多く見られるものです。明治鍼灸大学の篠原昭二教授は、経筋病証の反応が遠位部の滎穴と兪穴に出現しやすいということを臨床上の観察から発見しました。つまり経絡病証も経筋病証も診察のポイントは滎穴と兪穴の反応調査が重要だということがわかります。そして反応が強くて一方を治療のポイントとして採用することができるのです。反応が強くて遠位部の経穴は、そこに経絡を通じて病理信号が強く現れているわけですから、そこに鍼によって刺激を与え治療信号として患部にフィードバックさせれば効かせやすいということになります。篠原先生はこういった経筋病証に皮内鍼を応用されています。

### 四、六腑病証はどうするか

もう一つ循経選穴の例を紹介しましょう。先ほど紹介しました『靈枢』邪氣蔵府病形では、さらに「合は内府を治す」という法則性が提示されています。この考えにもとづくと、六腑病証に対しては、合穴を選穴すればよいということがわかります。同篇ではより効果が出やすいように、ここで下合穴を紹介し、六腑病証には下合穴を選穴するように指示しているのです。これらは六腑病証に対して循経選穴を行う場合の理論的根拠とされているものです。

### 五、選穴法について

中医鍼灸の選穴法としては、

- |          |          |         |
|----------|----------|---------|
| 1、 弁証選穴、 | 3、 対症選穴、 | 5、 経験選穴 |
| 2、 循経選穴、 | 4、 局所選穴、 |         |

### 六、配穴について

- 1、弁証配穴について：臓腑気血病証に対して用いられる。
- 2、循経配穴について：経絡・経筋病証に対して用いられる。
- 3、兪原配穴について：五臓病証に対して用いられることが多い。
- 4、兪募配穴について：臓腑病証に対して用いられることが多い。
- 5、募合配穴について：六腑病証に対して用いられることが多い。
- 6、局所配穴について：局所の改善を目的に用いられる。

## 第2章 診察システムと診断システム

### 一、生理観をベースとした診察・診断システム

#### 1、生理と病理の関係

生理がわからないと、病理はわからない。病理がわからないと、証の決定ができない、ということになります。証の決定ができないと、治療の組み立てができず、対症療法しかできないということになります。証の決定は治療の指針になるものです。

#### 2、弁証の進め方

- ①弁証のポイント:原因、どこ、何が、どうなっている
- ②診断システムと治療システムとの関係[処方レベル1、レベル2]
  - 1、診断システム[レベル1]……治療システム[レベル1]
  - 2、診断システム[レベル2]……治療システム[レベル2]
- ③レベル1のスライド
- ④レベル2のスライド
- ⑤レベル2の例

### 二、病位の把握の仕方

[演習1]病位把握のための問診表を作ってみよう

◆診断システムのレベル1とレベル2の診察において、「どこ」に問題があるのかという病位を把握するためには、蔵象理論・経絡理論を応用することができます。

#### A、肝病証の診察のポイント[病位情報]

- ①めまいの有無 ②胸脇部の症状 ③口苦の有無 ④イライラ・易怒の有無⑤しびれ・ケイレンの有無 ⑥目の症状の有無 ⑦飲酒について⑧血圧について ⑨爪の観察 ⑩汗について

#### B、心病証の診察のポイント[病位情報]

- ①心悸の有無 ②夢をみるかどうか ③胸悶感の有無 ④精神状態について⑤健忘の有無 ⑥心痛の有無 ⑦舌について ⑧上肢内側の痛み・しびれの有無⑨顔色の観察 ⑩汗について

#### C、脾病証の診察のポイント[病位情報]

- ①食後腹部の膨満感の有無 ②腹鳴の有無 ③食欲の状態について④大便の形状について ⑤痔や脱肛の既往歴について ⑥内臓下垂の有無⑦筋肉の状態について ⑧四肢の状態について ⑨腹痛の有無 ⑩偏食について

#### D、肺病証の診察のポイント[病位情報]

- ①咳の有無 ②呼吸の状態について ③喘息の有無 ④痰の有無⑤鼻の症状について ⑥喉の症状について ⑦胸悶感の有無 ⑧感冒について⑨浮腫の有無 ⑩汗について

## E、腎病証の診察のポイント[病位情報]

- ①足腰の状態について ②耳の状態について ③尿について ④浮腫の有無⑤健忘について ⑥髪の毛の色つや・脱毛について ⑦めまいの有無⑧歯の状態について ⑨性機能の状態について ⑩発育状態について

[演習2]自己チェックをしてみよう。

1. 五行スコア
2. 健康度チェック表

五行スコア[明治鍼灸大学制作]

## ◆肝スコア

1	めまいがすることがありますか	[風]
2	おなかの両わきがはりやすいですか	[胸脇部(部位情報)]
3	気持ちが落ち込みやすいですか。	[情志]
4	イライラしやすかったり、怒りっぽいですか。	[怒]
5	手足がしびれたり、ひきつれたり、けいれんしたりしますか	[筋]
6	目が疲れやすいですか	[目]
7	お酒をたくさん飲む方ですか	[肝臓]
8	いやなことがあるとすぐ血圧があがります	[昇発]
9	爪の形や色がふつと違いますか	[筋余、爪]
10	涙が出やすかったり、目がかわいたりしますか	[目、涙]

## ◆心スコア

1	ドキドキしやすいですか	[心、心悸]
2	夢をみやすいですか	[神、血]
3	胸苦しいことがありますか	[胸部(部位情報)]
4	精神的に動揺しやすいですか	[神]
5	舌が荒れやすいですか	[舌]
6	うわごとを言いますか	[神]
7	物忘れしやすいですか	[神、血]
8	心臓部に痛みがおこることがありますか	[胸]
9	腕の内側が痛んだり、だるくなったりしやすいですか	[心経]
10	胸がつまるような感じになりやすいですか	[胸]

## ◆脾スコア

1	食後にお腹がはりやすいですか	[腹部、部位情報、運化]
2	腸がグルグル鳴ることが多いですか	[運化]
3	食欲がないですか	[受納、運化]
4	下痢しやすいですか	[運化]
5	痔や脱肛になったことがありますか	[昇清]
6	胃下垂などの内臓下垂がありますか	[昇清]
7	腹痛が起こりやすいですか	[腹部(部位情報)]
8	消化不良を起こしやすいですか	[運化]
9	げっぷが出やすいですか	[胃、降濁]
10	胸やけがしやすいですか	[胃、氣逆]

## ◆肺スコア

1	呼吸がゼイゼイしやすいですか	[呼吸]
2	痰がよくからんだりしますか	[痰]
3	呼吸がしにくいことがありますか	[呼吸]
4	咳がよくでますか	[呼吸]
5	鼻がつまることが多いですか	[鼻]
6	喘息がでることがありますか、または以前にありましたか	[呼吸]
7	鼻炎といわれたことがありますか	[鼻]
8	のどが痛くなったり、腫れたりすることが多いですか	[喉]
9	鼻水がよくでますか	[鼻]
10	声がよくかれますか	[喉]

## ◆腎スコア

1	年齢のわりにふけている方ですか	[精]
2	尿の量や回数が多い、または少ないですか	[尿]
3	物覚えがわるいですか	[精、髓]
4	耳鳴りがすることがありますか	[耳]
5	足腰がだるいことがありますか	[腰]
6	音が聞き取りにくいことがありますか	[耳]
7	尿線に勢いがないですか	[尿]
8	小便が切れにくいですか	[尿]
9	足がむくみやすいですか	[主水]
10	長く立っているとすぐに腰が痛くなりますか	[腰、骨]

## 【付録】舌診について

◆各自の舌診を受診者本人に診てもらう前に、舌質、齒痕、裂紋、舌苔などについて事前に説明する。各自検査後に、該当するものには挙手をしてもらい、相談に応じるようなスタイルにすると、受診者が自分の問題として参加してきやすい。

[観察のポイント] 観察項目一覧を作っておき、それにチェックを入れる形式とする。

- 1、舌質の赤みの程度→血の量の問題、体内にこもっている寒熱の程度のチェック
- 2、舌質の瘀斑の有無→瘀血のチェック(舌質の青、紫、暗、舌下静脈の観察と併用)
- 3、舌の齒痕の有無→元氣度、体のパワー度のチェック
- 4、舌の裂紋の有無→体内の必要な水分の量、状態のチェック
- 5、舌苔の量の問題→体内の余分な水分の量、状態のチェック
- 6、舌苔の色の問題→体内の寒熱の程度のチェック

## 三、基本病理の把握の仕方

## ◆レベル2◆のアプローチ

気血津液精陰陽の作用やバランス関係といった生理観が必要であり、またそれに対応する治療システムに精通していなければならない。 →鍵はどこまで診断、すなわち証決定をするかにある。

## ◆レベル1◆のアプローチ

どこが虚しているのか、どこが実しているのか

→虚には原穴、募穴、背俞穴、母穴

→実には原穴、募穴、背俞穴、子穴

## ◆レベル2◆どこで、何が、虚しているのか。どこで、何が、実しているのか。

→「何がどうなっている」というのは、気血津液精陰陽のバランスがどうなっているのかということ。これらのどれかが「不足」している場合は「虚」ということになり、また、「有余」の状態になっている場合は「実」ということになり、

→「何が」虚しているのか、実しているのか、これを判断するためには、**基本病理**とそれに出現しやすい症状・所見をしっかりとマスターしておく必要があります。

→◆レベル2◆の治療システムにおいては、それぞれの**基本病理**に対して、どのような治療穴でアプローチするかを把握しておく必要があります。

## 【寒熱弁証】について

陰陽のバランスが人体の寒熱のバランスを決定しています。この陰陽のバランス失調には2パターンあり、1つは一方が強くなってしまふ偏盛、もう1つは一方が弱くなってしまふ偏衰です。陽については熱イメージを、陰については寒イメージをもって、このスライドにある陽盛、陰盛、陽衰、陰衰について、どのような寒熱の変化があらわれるかイメージしてみましょう。

#### 四、診断システムと治療システムの実際

##### 【レベル2へのチャレンジ】

【ポイント】基本病理と病位情報の活用

##### 【診察・弁証のポイント】

ステップ1: 基本病理が把握できる

ステップ2: 病位情報が把握できる

ステップ3: 同時進行で診察、診断ができる

##### 【弁証論治システムの実際】

##### 1、気虚グループを例として

##### 【気虚に共通して出現しやすい症状・所見】

息切れ、倦怠、無力感、懶言、自汗、動くと症状が増悪、脈弱

##### 【これに病位情報が加われば、弁証結果がでてる】

気虚 + 肺情報	= 肺気虚
気虚 + 心情報	= 心気虚
気虚 + 脾情報	= 脾気虚
気虚 + 腎情報	= 腎気虚
気虚 + 心情報 + 肺情報	= 心肺気虚
気虚 + 脾情報 + 肺情報	= 脾肺気虚など

##### 【治療システム】

1. 気虚には補気の要穴(足三里、合谷、氣海など)
2. 病位にもとづいて、各臓腑と関連する原穴、背俞穴、募穴、母穴など

##### 2、陰虚グループを例として

##### 【陰虚に共通して出現しやすい症状・所見】

五心煩熱、盗汗、口や咽頭の乾き、頬部の紅潮、舌質紅、少苔、脈細数

##### 【これに病位情報が加われば、弁証結果がでてる】

陰虚 + 肺情報	= 肺陰虚
陰虚 + 心情報	= 心陰虚
陰虚 + 脾情報	= 脾陰虚
陰虚 + 肝情報	= 肝陰虚
陰虚 + 腎情報	= 腎陰虚
陰虚 + 心情報 + 腎情報	= 心腎陰虚
陰虚 + 肺情報 + 腎情報	= 肺腎陰虚
陰虚 + 肝情報 + 腎情報	= 肝腎陰虚

##### 【治療システム】

1. 陰虚には補陰の要穴(復留、照海、三陰交など)

2. 病位にもとづいて、各臓腑と関連する原穴、背俞穴、募穴、母穴など

### 3、血虚グループを例として

#### 【血虚に共通して出現しやすい症状・所見】

顔色萎黄・淡白、唇や舌質や爪の色が淡、めまい、四肢のしびれ、脈細  
女性では月経量の減少、経色淡、月経後期または閉経

#### 【これに病位情報が加われば、弁証結果がでてる】

血虚＋心情報                    ＝心血虚  
血虚＋肝情報                    ＝肝血虚  
血虚＋心情報＋肝情報        ＝心肝血虚

#### 【治療システム】

1. 血虚には血証の要穴(三陰交、膈俞、血海など)
2. 病位にもとづいて、各臓腑と関連する原穴、背俞穴、募穴、母穴など

### 4、実熱グループを例として

#### 【実熱に共通して出現しやすい症状・所見】

口渇して冷飲を好む、身熱、顔面紅潮、尿黄、舌質紅、舌苔黄、脈数

#### 【これに病位情報が加われば、弁証結果がでてる】

実熱＋肺情報＝肺実熱  
実熱＋心情報＝心実熱  
実熱＋脾情報＝脾実熱  
実熱＋肝情報＝肝実熱

#### 【治療システム】

1. 実熱には滎穴や清熱の要穴(合谷、曲池、内庭など)
2. 病位にもとづいて、各臓腑と関連する原穴、背俞穴、募穴、子穴など

## 五、効能別[穴性]を把握しておく臨床応用がしやすい。

- 例1、解表の要穴(風門、大椎、列缺、外関、合谷など)
- 例2、去風の要穴(風門、大椎、合谷、曲池、風府など)
- 例3、血証の要穴(三陰交、膈俞、血海など)
- 例4、利尿の要穴(中極、腎俞、陰陵泉、関元など)
- 例5、理気の要穴(間使、太衝、内関など)
- 例6、調気の要穴(膻中、中脘、氣海など)
- 例7、補腎の要穴(太谿、腎俞、復溜など)
- 例8、去痰の要穴(豊隆、足三里、中脘、天突など)
- 例9、滋陰の要穴(復溜、三陰交、照海など)
- 例10、壮陽の要穴(関元、命門など)

**【まとめ1】臓腑病証に対する選穴モデル**

## 1、臓腑証治の選穴ポイント

臓の病証……原穴、背俞穴、母穴、子穴、俞原配穴など

腑の病証……合穴(下合穴)、募穴、募合配穴など

## 2、陰陽証治の選穴ポイント

陰虚……復溜、三陰交、照海など

陽虚……関元、命門など

## 3、気血証治の選穴ポイント

気の病証……

気虚:気海、足三里(脾俞、太白、合谷)など

気滞:内関、太衝、間使、膻中、中脘、気海など

気逆:足三里、尺沢、内関、公孫、天突など

血の病証……

血虚:三陰交、膈俞、血海(太衝、足三里、脾俞)など

血瘀:三陰交、膈俞、血海、太衝など

## 4、痰湿風火証治の選穴ポイント

痰の病証……豊隆、中脘、足三里、天突など

湿の病証……陰陵泉、三陰交、脾俞など

風の病証……列缺、曲池、外関、百会など

火の病証……行間、少府、内庭、前谷、然谷など

**【まとめ2】五臓病証を例とした配穴トレーニング**

1、肺気虚の場合は

3、肝陰虚の場合は

5、腎陰虚の場合は

2、肺陰虚の場合は

4、腎気虚の場合は

**【まとめ3】肝病証を例として**

1、肝虚……曲泉、太衝、肝俞など

①肝血虚……+血海、膈俞、三陰交

②肝陰虚……+復溜

2、肝実……行間、太衝、肝俞

①肝鬱……+太衝、期門

②肝火……+行間

③肝陽……+太衝

④肝風……+風池